

科目名		架構実習 I			
担当教員		上田 正義		実務授業の有無	有
対象学科	建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	96
授業概要、目的、 授業の進め方	建築大工の技術者として基本となる道具の知識・使用法、管理を学び、在来軸工法の基礎的な技術を実習を通して学ぶ 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い基礎技術を身につける。 2. 加工、工法に応じた道具と、手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。				
学習目標 (到達目標)	建築工法が多様化している昨今、長い歴史と根強い人気を持つ在来軸組工法の基礎的な諸作業を行うことで、現在、建築大工として求められる心構えや知識、技能の基礎を身につけるとともに、社会に貢献できる職人として、また社会人としての人間力を備えた人材を育成することを目的とする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	大工道具の準備、調整 (道具箱制作) ①道具箱の作成、 ②鑿の刃研ぎ ③鑿、鉋、のこぎり等の調整			方法: 課題に対する説明。工具、材料を使って課題の加工方法の説明。 達成目標: 健康、安全管理ができており、①~④ができるようになる。	
2	基本的な仕口 ほぞ穴等の加工 (各種道具を使った加工) ①角材を使い仕口の墨付け加工 ②各種道具の正しい使用法			方法: 課題に対する説明。工具、材料を使って課題の加工方法の説明。 達成目標: 健康、安全管理ができており、①~②ができるようになる。	
3	在来工法の各種仕口の習得 (一般的な継手各種を習得) ①角材を使い墨付け、加工の修練 ②各種仕口加工を習得する			方法: 課題に対する説明。工具、材料を使って課題の加工方法の説明。 達成目標: 健康、安全管理ができており、①~②ができるようになる。	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢			前期のテーマは今後の授業のすべての基礎となるため、確実に習得できるよう毎日の目標を設定し授業に取り組みさせる。 知識と同時に技術を伴う内容のため、機能や管理方法を十分理解したうえで、道具等の安全な取り扱いに留意し繰り返し、積極的に実習に取り組み技術の習得を目指す。	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建築大工として40年実務に携わる			